

小川ひさし県議会レポート

「来年度予算要望書を知事に提出」

10月13日、私が所属する会派「埼玉民主フォーラム」は、来年度の予算要望書を大野知事に提出しました。12月定例会では、本会議一般質問に初登壇することも決定しました。皆様から日々頂いております暮らしの中からの声を県政に反映することができますよう努力して参ります。



活動報告

「児童福祉施設などで暮らす子どもたちの声を県政へ」

虐待などによって親・家族と一緒に暮らすことができない子どもたち

保護者のない子どもや虐待されている子どもなど、環境上養護を要する児童を入所させて養育を行うことを目的とした児童養護施設は、現在、埼玉県内には22施設があります。その他、児童心理治療施設、児童自立支援施設などに約1,500人の子どもたちが生活しています。県議会議員として活動をスタートした5月より、県内の児童福祉施設をできる限り訪問し子どもたちの生活環境における課題などについて、聞き取り調査を続けています。

<児童心理治療施設・嵐山学園>(嵐山町) 7月31日訪問

児童心理治療施設は、家庭環境、学校における交友関係その他の環境上の理由により社会生活への適応が困難となった子どもを、短期間入所させ、又は保護者の下から通わせて、社会生活に適応するために必要な心理治療及び生活指導を行う施設です。特徴としては、心の治療を行うために医師が常駐しており、また施設内に小中学校の分校を併設しています。この嵐山学園は、児童精神科医師が施設長を務めています。このような傷ついた心の治療と生活支援、学校教育を受けることができる施設は県内に1施設しか存在しません。(※学校を併設しない高年齢児を対象とする施設はさいたま市に1施設あります)虐待などによって心が傷つき精神疾患を持つ子どもたちは増えています。そうした現状において、わずかに1施設のみで対応できるのか？例えば、大阪府には6施設あります。埼玉県内においても、さらに心が傷つき精神科医療を必要とする子どもたちの医療環境の整備が必要です。



選挙で一票を投じることができない子どもたちの声なき声を聞き県政へ届けます！

虐待などによって心に疾患を持つ子どもたちに対して医師やセラピストによる治療・カウンセリングなどが受けられるよう環境の充実に向けて取り組みます。

応援したい学校や教育施策を指定して寄附できる制度の創設！



Q)市議会議員当時、市立小・中学校の保護者負担(PTA寄附)を軽減して、公費負担を増やすこと。また、自発的に学校へお金も含めて寄附したい方が寄附できる仕組みを提案していたが、その理由は？

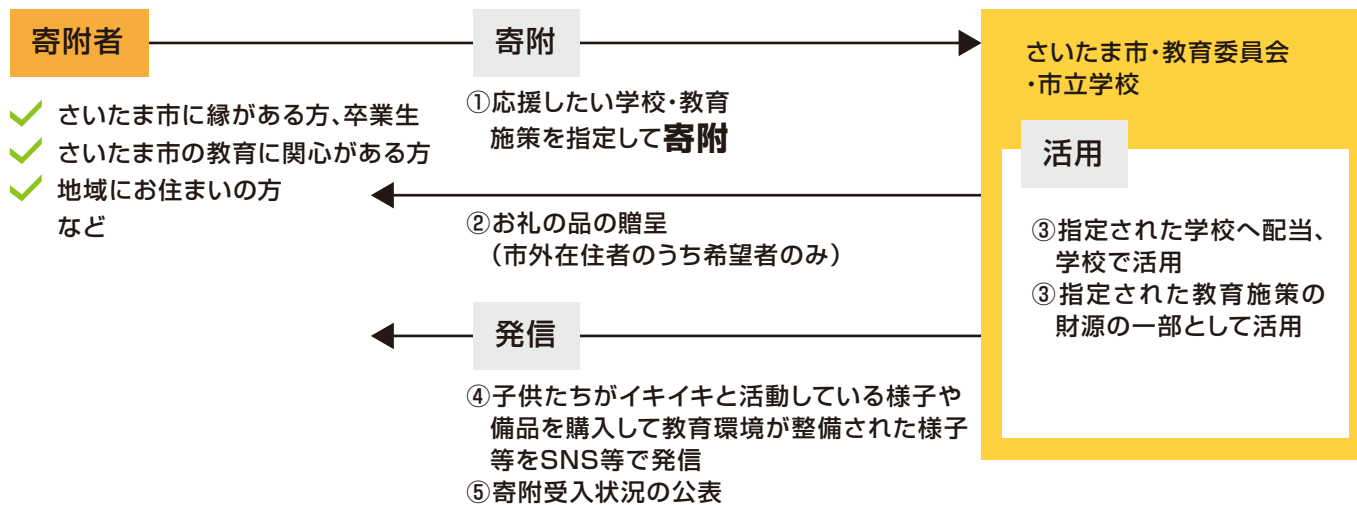
小川

これまで、さいたま市立の小学校、中学校にお金を寄附したいと希望しても寄附を受け付ける仕組みはありませんでした。一方で、多くの小中学校において毎年多額のPTA会費から寄附を受けていました。(現金は受けられないため物品で)しかし、実態は学校が買いたい品物を決めてお金はPTA会費で支払うということが多々ありました。本来は、学校の備品など公費で賄う必要がある物品をPTA寄附に頼らなくても良いように学校予算を増やすことに力を入れて取り組んできました。

学校を指定してお金を寄附できる制度の創設「さいたま MY SCHOOL ファンド」

一方で、例えば遺産相続の一部を地域の市立小学校へ、あるいは卒業した市立中学校へ寄附したいと希望しても、これまではお金の寄附を受け付ける仕組みがありませんでした。そこで、市議会議員として最後の議会となった令和5年2月定例会において市長に対して

- ①教育における学校予算を増やし安易にPTA寄附に頼らないこと。
- ②その上で、純粋に自発的に学校に寄附をしたいと希望する方に対しては正規に寄附を受け付けられるふるさと納税制度を活用した新しい制度を創設することを提案しました。当時、清水市長から前向きかつ積極的な答弁があり、令和5年7月より新制度がスタートしました。



Profile 小川ひさしプロフィール

1964年大阪市生まれ
 1982年近畿大学附属高校卒業後、西川きよし氏に師事。(～4年6カ月間の内弟子修行)
 1986年参議院議員西川きよし氏秘書 私設
 1987年西川きよし政策担当秘書
 2011年さいたま市議会議員選挙初当選
 2015年さいたま市議会議員選挙二期目当選
 2019年さいたま市議会議員選挙三期目当選
 2020年第15回マニフェスト大賞最優秀政策提言賞受賞
 2023年埼玉県議会議員選挙初当選
 趣味3人の孫たちと遊ぶこと



令和5年7月1日より新制度がスタートしました。応援したい学校や教育施策を指定して寄附できる制度です。制度の詳細はQRコードをご覧ください。

